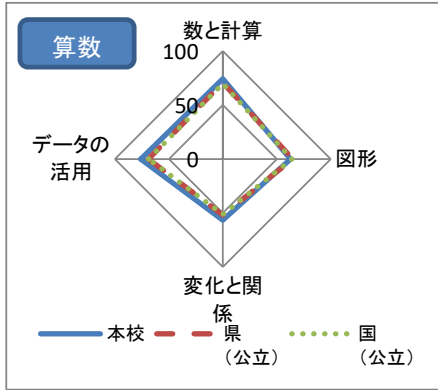


令和4年度全国学力・学習状況調査 指導方法等の改善計画について【算数】

海田東 小学校

本年度正答率(本校67%, 県64%, 国63.2%) 本年度の結果について



・「D データの活用」の領域では、正答率76% (県平均68.9%)であり、問題別にみると、目的に応じてデータの特徴を捉え考察する問題では73.8% (県平均64.6%)で9ポイント、表の意味を理解し全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求める問題は82% (県平均75.5%)と6ポイント上回っている。授業で教師が昨年度のキャッチフレーズ「1はただの1じゃない」を意識し、児童に目的意識をもたせることやPPDACサイクルを本質的な問いに組み込ませることで定着している。

・「B 図形」の領域では、正答率62.7% (県平均64.8%)であり県平均を下回っている。図形の意味や性質について理解したり、図形の意味や性質を基に図形の構成の仕方について考察したりすることに課題が見られる。また、「C 変化と関係」の領域で、2(3)数量が変わっても割合は変わらないことを理解しているかをみる問題では、県平均は上回ったものの、4分の1の児童が間違っていた。

重点課題
<p>【課題1】</p> <p>○4(1)正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述する問題の正答率が42.8% (県平均48.9%)、4(3)ひし形を構成する要素に着目して、ひし形の意味や性質、構成の仕方の理解を問う問題の正答率が62.3% (県平均66.9%)等、図形の意味や性質を基に図形の構成の仕方を考察する指導が十分図られていない。</p>
<p>【課題2】</p> <p>○割合の問題で、数量が変わっても割合は変わらないことを理解しているかを問う問題で、誤答を選ぶ児童の割合が一定数見られる。</p>

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)	全校での目標(キャッチフレーズ)
<p>○数学的活動を重視</p> <ul style="list-style-type: none"> 電子黒板を活用して視覚支援(図形の性質と図形の構成を色で表現)をする。 ナンバリングしながら作図をさせる。 	<p>Let's challenge!!! 楽しく数学的活動!</p>
<p>○イメージ化</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題場面を絵や図に表し、具体的なイメージをもたせ、数直線等に抽象化していく。 	<p>1は、ただの1じゃない!</p>

令和5年度 全国学力・学習状況調査 数値目標

平均正答率が県平均を3%上回る。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月・4月
学年・方法	<ul style="list-style-type: none"> 図形の角(5年) 数学的活動、デジタル教材等の操作と図形ごとの振り返り 長方形と正方形(2年) 数学的活動、デジタル教材等の操作 	<ul style="list-style-type: none"> 垂直、平行と四角形(4年) 数学的活動、デジタル教材等の操作と図形ごとの振り返り うでだめシート(東書) 	<ul style="list-style-type: none"> CRT(令和3年度) 算数のツボ活用 	<ul style="list-style-type: none"> 四角形と三角形の面積(5年) 数学的活動、デジタル教材等の操作 CRT(全学年) 	<ul style="list-style-type: none"> CRT結果分析 課題のある問題実施 	<ul style="list-style-type: none"> 三角形と角(3年) 数学的活動、デジタル教材等の操作 	<p>5年生全国学力・学習調査(令和3年度)</p>
目標値	単元テスト85%	単元テスト85%		単元テスト85%		単元テスト85%	75%
実施後数値							
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月・4月
学年・方法	<ul style="list-style-type: none"> 倍の計算(4年) もどにする量(1)に常に着目して考える。問題のイメージ化。 	<ul style="list-style-type: none"> うでだめシート(東書) 	<ul style="list-style-type: none"> CRT(令和2年度) 算数のツボ活用 	<ul style="list-style-type: none"> CRT(全学年) 	<ul style="list-style-type: none"> 割合(5年) もどにする量(1)に常に着目して考える。問題のイメージ化 	<ul style="list-style-type: none"> データの調べ方(6年) 棒グラフと円グラフ(6年) 数学的活動、デジタル教材等の操作 倍の計算(3年) もどにする量(1)に常に着目して考える。問題のイメージ化。 	<p>5年生全国学力・学習調査(令和3年度)</p>
目標値	単元テスト85%		80%	80%	単元テスト85%	単元テスト85%	75%
実施後数値							